

## 採択事業 No. 2

種 別：行政提案型事業

団体名：宝塚市長尾台小学校区まちづくり協議会

事業名：いごこちの良い景観再発見PJ

交付決定額：500,000円

### （事業を行おうとした動機）

令和3年度は、コロナ禍で地域交流が途絶え地域のきずなが崩壊し、まちの歴史や文化を引き継げないという危機感が沸き起こりました。コロナ禍でも出来るオンラインを主体にした講演会でこのまちの景観の歴史を伝え、スタンプラリーでその場所を確認するイベントを開催して、自分たちのまちの魅力を再発見するとともに宝塚市内外へ発信する活動を行いました。講演会の内容は記念誌としてまとめ配付し、好評のうちに終えることが出来ました。

このまま終わってしまうのではなく、芽吹き始めた新しい活動をさらに大きく育て行くため、今年度はさらに若い世代が中心となった活動を加え、この地域の景観の魅力を感じ伝え守っていく活動に育ていくことを目的に企画しました。

昨年度の歴史講演会では、会場への参加は高齢者の参加が多かったのですが、オンラインでは宝塚市内外の幅広い年齢層の参加がありました。スタンプラリーは、定点観測では平均2.6名のグループで、子どもと一緒に楽しむ家族での参加が多くありました。

また、記念誌の作成は地域にスキルのある子育て世代を中心にまとめてもらうことで、堅苦しくなりがちな冊子も読みやすく、幅広い世代で興味を持っていただけました。

しかしながら、従来のお祭りとは異なり、地域の皆さんがイベント運営に参画する機会が少なかったという反省が残りました。

今年度は子どもに焦点を当て、子どもたちに連れられてその親世代も同時に参加し、親子で地域の魅力を確認し合い、自分たちで景観スポットを再発見するイベントを目指します。ひとりひとりが感じる魅力をその場で体験し、写真やスケッチといった形で発表してもらうことで、意識せずとも地域活動に主体的に参加をしてもらえることを狙いました。

コロナ禍では以前のように大規模に集合したイベントを行うのは困難です。昨年度のスタンプラリーでは、40日間の期間を設けてイベントの参加者が分散するように工夫をしました。反面、運営側としてはスタンプポイントを設置すれば概ね準備が終わり、各自治会から運営にかかわりを持つ機会が減って、物足りなさが残りました。従来から続く『ひばり祭り』のように、構成する各自治会から選出されたメンバーが参加するイベントにはなりませんでした。

ただ、単にお祭りを継続するだけでは、義務的で形骸化したものになりがちです。各自

治会で子育て世代を中心に、「たのしそう」「面白そう」な企画でそれぞれが趣向を凝らしたイベントにする計画です。マルシェとステージを準備し、昨年度好評で続編を期待されている歴史講演会を組み合わせ実施する計画です。

また、当地域の景観の魅力は自然と共存した住環境にあります。

隣接する里山『きずきの森』は自然が残され、環境をテーマとしたワークショップやイベントを毎年行ってきました。今回は、この森に生息する生き物の観察会を開催します。また、ここには大阪平野を一望できる見晴らし台があります。残念ながらアクセスが良くないので、まだまだ知らない方が多いと思います。当初は、当地域の住宅開発のきっかけの一つとなったトロリーバスを1/2サイズで再現する計画でしたが、安全面や技術面で課題が多く断念しました。この為、代替案として往時の雰囲気があるトロコ列車を走らせることで、車窓からの景観を往時をイメージして眺めるイベントを開催します。

身近で魅力ある自然や歴史を、校区内だけでなく宝塚市内外の多くの方にアピールすることを企画しています。

子育て世代が子どもたちに連れられ参加することで、この地域の素晴らしい景観を再発見し愛着をもち景観を守り伝えていく活動につなげていきます。

#### (事業を行う目的と期待される効果)

##### 【目的】

コロナ禍が続き人々の活動が分断される中、住民が地域のつながりを大切に考え、魅力あるまちとして地域活動に積極的に参加できるきっかけをつくります。

自然と共存した住宅地としての景観を守っていくことを、若い世代に引き継いでいきます。そして校区内だけでなく、宝塚市内外へこの地域の景観の魅力を発信します。

##### 【期待される効果】

- ・子ども達をターゲットにその親世代が地域の景観とその魅力を再認識
- ・都心へのアクセスが容易なだけでなく、自然と共存した暮らしやすい住環境を再認識
- ・明治後期から住宅地として開発されたこのまちならではの歴史を知ること、地域に愛着をもつ
- ・まちづくり計画への関心度の向上
- ・市内外への発信で宝塚市の魅力度のアップに貢献する
- ・身近にあるまち山の利活用で地域のブランド力の向上

#### (事業の内容)

4月～5月：実行委員会の開催（4回：各回15名：コミセン）

マルシェ・ステージ、歴史講演会、きずきの森の各チーム  
チーム分け及び役割分担

小学校の利用許可などイベント実施場所の確定

6月～7月：実行委員会の開催（4回：各回15名：コミセン、ZOOM）

進捗確認、ポスター配布先。枚数確定、広報の確定

7月：スケッチ・写真撮影セミナー

11月に開催予定のスケッチ・写真展の作品募集のため、事前にセミナーを開催し周知を行う。

10月：歴史講演会の開催（小学校 or コミセン他サテライト会場75名+ZOOM80名）

昨年度好評だった歴史講演会であるが、花屋敷地区を中心にした『現在の景観を織りなす歴史講演会 PART2』を開催する。

10月：（ひばり祭り）マルシェ・ステージの開催

地域活動に興味を持った若い世代が、気軽に主催側として参加できるように、従来のひばり祭りを若手中心のイベントとして開催し、当地の景観の魅力を地域にアピールする

11月：『きずきの森』イベント開催

自然と共存した当地域の魅力を、宝塚市内外の方に体験し知ってもらうために、『きずきの森』でワークショップやイベントを行う。当地域の住宅開発のきっかけの一つである日本初のトロリーバスにスポットを当て、その代替のトロッコ列車で車窓から見える当時の景観をイメージする。また『きずきの森』に生息する生き物や植物の観察会を開催し身近な自然を感じてもらう。

11月：わがまちのお気に入りスポット『スケッチ・写真展』

① 歴史講演会の記念誌発行の編集会議

（昨年同様1回15名ののち各自宅で作業）

② 当地の景観のお気に入りスポットを写真やスケッチで表現してもらい、その中から『（仮）わがまちお気に入り景観賞』などを選定し住民参加型イベントを目指す。

3月：歴史講演会 PART2 の記念冊子送付（送：300円 x100人）

3月：この地域の自然と共存した景観を引き継いでいくために地域の樹木マップを作製し、当地域内住民に配布する。